

平成 29 年度 南信教育事務所だより

教学半也

教えるは 学ぶの 半ばなり

第 4 号 10 月 24 日 (火)

仙丈ヶ岳(南アルプス)

<目次>

- 1 全国学力・学習状況調査から授業改善を考える …p1・2
- 2 「合理的配慮」① …p3
- 3 研修会報告 …p4・5
- 4 地域ぐるみで子どもを育てるフォーラム報告 …p6

～お知らせ～ 平成 29 年度高校進学説明会のご案内

■ほんわか相談会

上伊那会場	伊那合同庁舎 講堂 他	11 月 10 日 (金)	午後 5 : 30～7 : 30
諏訪会場	諏訪合同庁舎 講堂 他	11 月 16 日 (木)	午後 5 : 30～7 : 30

■高校の先生との個別学校説明会

下伊那会場	飯田合同庁舎 講堂 他	10 月 27 日 (金)	午後 5 : 30～7 : 30
-------	-------------	---------------	------------------

1 全国学力・学習状況調査から授業改善を考える

全国学力・学習状況調査は、どのような力を問うているのでしょうか？

次の問題（小6算数B 第4問(2)）を解いてみましょう。さらに、どの誤答が多いか、どうしてその誤答が多いと思うのか下の表に書いてみましょう。

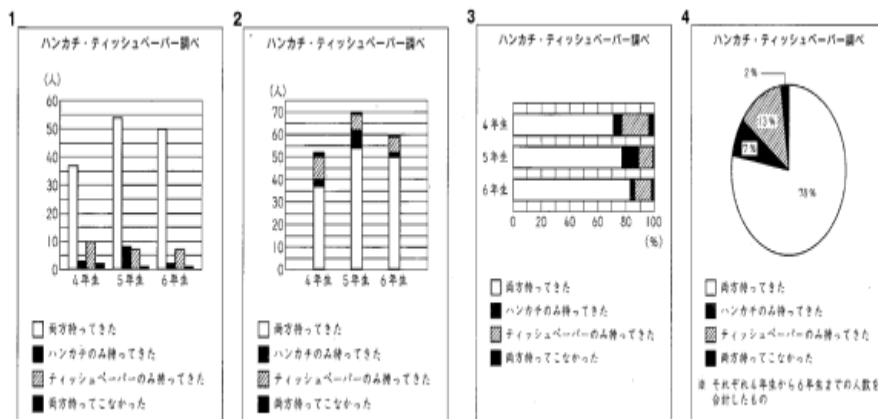
4 学校で、4年生以上の学年について、ハンカチとティッシュペーパーを
持っているかどうかについて調べました。

ゆいじさんは、調べた結果をグラフに表して発表しようと考えています。

ゆいじ 「ハンカチとティッシュペーパーの両方を、いちばんよく持ってきている学年がわかるようなグラフを作りたいです。」

さくら 「学年の人数がちがうので、「学年の人数」をもとにしたときの「ハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数」の割合がわかりやすいグラフを作ればよいと思います。」

(2) それぞれの学年の、「学年の人数」をもとにしたときの「ハンカチとティッシュペーパーの両方を持ってきた人数」の割合を表すのに、最も適したグラフは、右の1から4までの中のどれですか。1つ選んで、その番号を書きましょう。



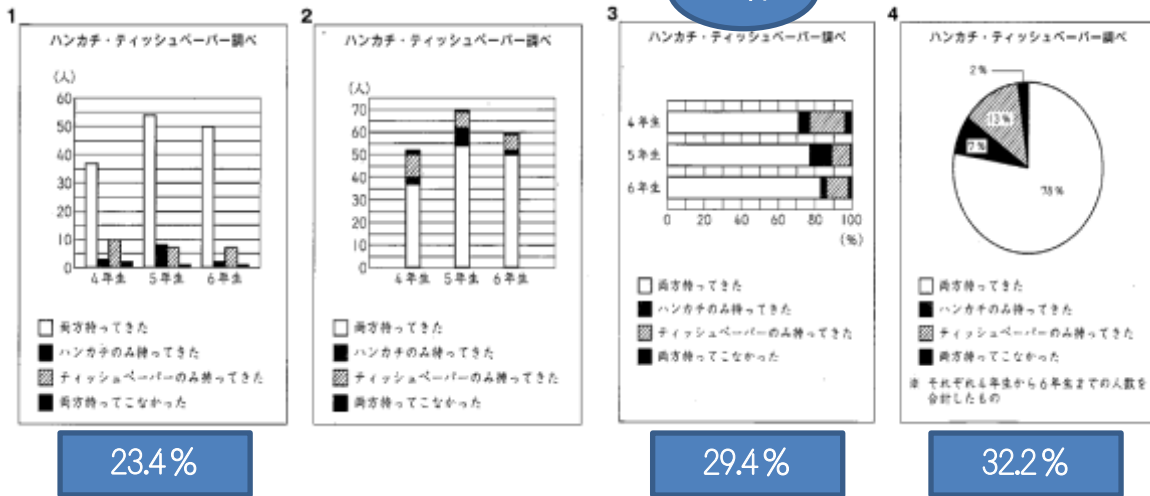
答え	一番多かったと思う誤答	その誤答を選んだ理由
	➡	

子どもの実態から、どのように授業改善をしていけばよいのでしょうか。

算数B第4問(2)は、割合を比較するという目的に適したグラフを選ぶことができるかどうかをみる問題です。

子どもの実態【反応率(どの選択肢を選んだか)】は？

正答



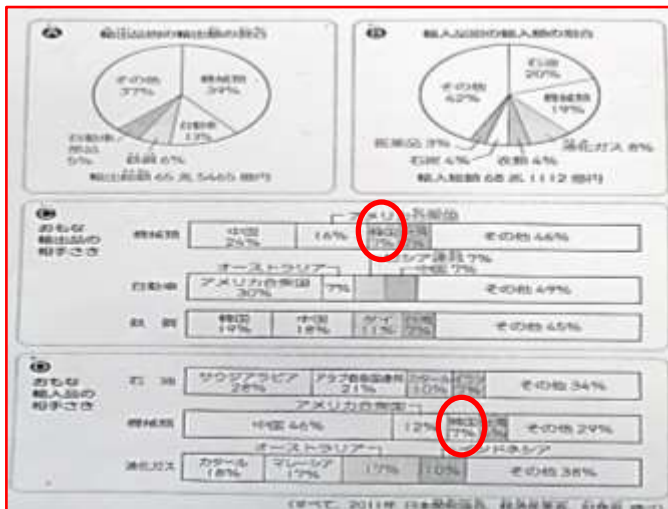
1を選んだ児童は、実数を表したグラフを選択しており、“割合を表すのに適したグラフ”という条件に合ったグラフを選択できておらず、4を選んだ児童は、割合を表すグラフを選択できてはいるものの、“各学年の割合を比較する”という目的に適したグラフを選択できていないことが考えられます。

学習指導に当たって(全国学力・学習状況調査報告書より)

問題を解決するために、目的に合った適切な表やグラフを選択し表したり、読み取ったり、グラフどうしを関連付けて解釈したりするなど、目的に応じて表やグラフを活用できるようにすることが大切です。

具体的な指導場面として(例) 算数教科書「よみとる算数」から

【日本の貿易の様子】からわかることを出し合う場面



【Aさんの気付き】
「資料を見ると、韓国からの機械類の輸入額は、韓国への機械類の輸出額と等しいことがわかります。」

【教師の発問】
「Aさんの言っていることは正しいですか？説明に必要なグラフを選び、ことばや式を使って正しいか考え、グループで話し合ってみましょう。」

このような指導場面を位置付けることは、第1回研究主任研修会で提案した授業改善の視点“必要な情報を選択し、自分の考えをまとめ表現する力”の育成にもつながります。

2 特別支援教育「合理的配慮」①

学びにくさを抱えている子に必要な配慮を考えたとき、その配慮は学級全体の支援なのか、個別の支援なのかの視点で整理しましょう。

学級全体の支援は「授業改善」になり、個別の支援が「合理的配慮」になります。



Aさん

特別な配慮を要するAさん（小学校）の事例

いくつかのことを一度に考えるのは苦手だな。
いつも分からなくなるので、算数の学習は嫌だな。

算数の授業で、Aさんの支援を考えよう。



【考えたAさんへの支援】

- ① 見通しがもちやすくなるように、授業前、学習問題について個別に予告する
- ② 見通しがもてるように活動の流れを示す
- ③ モデルや学習カード、半具体物や実物投影機などの視覚支援を行なう
- ④ 問題解決に困った場合のヒントカードを用意しておく
- ⑤ 説明の仕方の手順表を掲示する

Aさんのために考えた支援で、クラスの他の子にも有効なものは、学級全体の支援として行おう。



学級全体の支援【授業改善】へ

- ②見通しがもてるように活動の流れを示す
- ③モデルや学習カード、半具体物や実物投影機などの視覚情報を使う
- ⑤説明の仕方の手順表を掲示する

Aさんへの個別の支援【合理的配慮】へ

- ①見通しがもちやすくなるように、授業前、学習問題について個別に予告する
- ④問題解決に困った場合のヒントカードを用意しておく



Bさん

問題の説明が分かりやすかった。
黒板の掲示をヒントに考えたよ。
説明の仕方で困らなかったわ。



Aさん

まず、困っていることに気付き、必要な支援や課題を考えてみるのが大切です

3 研修会報告

初任研「教師力向上研修Ⅱ」 7/4（火）実施

- 教師力向上研修Ⅱでは、初任者と5年経験者が小グループで語り合い、互いの実践から学び合い、自己課題の解決の見通しをもったり、更なる向上心をもったりする姿が見られました。

＜板書を基に授業づくりの課題について話し合ったグループの様子から＞

- （A，C：初任者 B，D：5年経験者）
- A：子どもの言葉を要点的に板書することが課題です。
 - B：ねらいをはっきりさせて、何を大事にまとめるかがポイントだね。分かっているけどなかなか難しいけれどね。
 - C：構造的な板書って聞くけれど…。
 - D：黒板には、学習問題、学習課題、まとめがあることが、まず大事。



＜初任者の感想より＞

- …5年次の先生方の実践には、子ども達が「やってみよう!」「大切にしたい!」と思える単元のはじめの工夫があり、とても参考になりました。板書や模造紙のまとめ方も、子どもの学びが分かりやすく書かれていて、そういったことにも気を付けていく必要があるのだと気付きました。…
- …5年研の先生方と話をし、実践の中で経験を積まれてきたことをひしひしと感じました。5年間、子どもと向き合い、考えてきたんだろうなあと思います。…

＜5年経験者の感想より＞

- 5年目として少しずついろいろなことが分かってきたつもりでいましたが、初心にかえって、初任のときに大切にしていたことを改めて見つめ、今の自分を考え直す機会になりました。大変なことは多々ありますが、子どものせいにせず、一つ一つ見つめながら取り組むことを続けていきたいと思います。…（授業改善に向けて）自分がやるべきことがまだまだあるなあと感じました。初任の先生方に負けていけないなあ胸が熱くなりました。

- 初任者にとっては、5年経験者から授業のあり方とともに、教師として子どもたちと真摯に向き合いながら経験を積んでいくことの大切さを学び、5年経験者にとっては、実践の成果と課題を振り返るとともに、初任者の姿から自身の姿を見つめ直す機会となりました。

初任研「夏期宿泊研修」7/31～8/4実施 総合教育センターにて実施

全県の初任者が担当学年や教科ごとに総合教育センターに集まり、それぞれ2日間の日程で教科や学級活動、道徳等の指導の基本について学びました。

国語の学習問題を考える場面で…

A先生「『ちいちゃんのかげおくり』で場面の移り変わりに注意し、叙述を基に想像して読む力を付けたいと思います。」

B主事「そのためには、教材の価値である特徴的な表現に着目させたいですね。」

A先生「この物語で特徴的な表現は『かげおくり』をする場面だよね…。」

C先生「それなら、二つの『かげおくり』を対比して読めるようにするといいのかも。」

A先生「そうか、『二つのかげおくりの同じところと、違うところは何だろう』でどう？」

教科指導の研修では、具体的な授業づくりにグループで取り組みました。「学習に目的意識をもって取り組むには?」、「子どもたちの学びを適切に評価するには?」、「追究場面で子どもたちの考えを整理するには?」等々、日頃の悩みや指導の課題から観点を定め、1学期の実践や研修から学んだこと、先輩の先生方から教えてもらったことを出し合いながら、考えを深めました。

1学期の自分の実践についてアドバイスをもらったり、2学期の単元についてグループで考え合ったりする中で、少し自信をもって子どもたちの前に立てると思いました。
(初任者の感想より)

まさに「主体的・対話的で深い学び」を通して、教師としての資質・能力を高めようとした初任の先生方。2学期も日々の実践から課題を見だし、試行錯誤を重ねながらその解決に向かってほしいと思います。

第2回 諏訪・上伊那地区 授業づくり研修会 9/12(火) 諏訪合同庁舎にて実施

「ねらいを明確にした授業づくり」を考え合いました

・授業づくりのポイントが分かり、楽しくて面白い時間を過ごせました。(算数・数学)

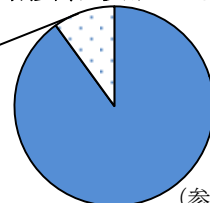
・生徒が考えたくなる授業のヒントをいただき、悩みを聞いていただけたこともとてもありがたかったです。(社会)

授業のねらいについて悩んでいましたが、今日ご指導いただき、スッキリとしました。授業づくりのおもしろさも教えていただきました。(音楽)

ねらいを明確にするにはどうすれば良いか、学習問題や学習課題の設定の仕方や着目すべき点を学んだので生かしたい。(理科)

今日の研修会に参加してよかったか

まあまあ
よかった
10%



とても
よかった
90%

(参加者アンケート)

第3回 授業づくり研修会(臨時的任用教員研修会) 申し込み締め切り10月31日(火)

・日時 11月20日(月) 14:00～16:45 伊那合同庁舎 5階講堂

・内容 3観点を意識した授業づくり ※多くのご参加をお待ちしております。

平成29年度 地域ぐるみで子どもを育てるフォーラム

平成29年8月29日(火)に諏訪市文化センターを会場に、地域ぐるみで子どもを育てるフォーラム(学社連携意見交換会)を250名を超える方の参加を得て盛会に終えることができました。「子どものためにつながろう わたしにもできること」をテーマに、子どもを育てるためにできることを、それぞれの立場から考え合いました。

- パネルディスカッションでは、地域の子ども支援クラブ代表、町教育委員会地域連携主事、学校の教頭先生の3名から、取組を紹介していただき、お話をお聞きしました。

「多世代の人達とどのように接するか考えることが子ども達にとっての学びです」「夕学の学習ボランティアさんから学ぶ姿勢や人としての生き方までも学んでいます」「解決しなければならぬ課題を克服することで生徒達は力をつけています」3人のパネリストから実践を通じた、子どもの育ち、子どもと教師と地域はどう変わったか、自分自身が一番の学び手となっている様子等をお聞きしました。



- 7つの分科会では先進的な取組が報告されました。

【第1分科会】「地域講師による朝学・夕学の取組」

富士見中学校地域連携教員 濱 喜一郎さん

富士見中の「朝学・夕学」では、一人一人の学びを保障するため、地域講師と教わる時間と自学で進める時間を組み合わせる工夫をしています。



【第2分科会】「子どもの自主性を育む大人や高校生の思い」

茅野市教育委員会こども館主任 半田 裕さん

CHUKOらんどチノチノ、ハラカツ!、ちえんじすわ

みーていんぐ、岡谷 JK プロジェクトの高校生

中高生の居場所づくりから始まった活動ですが、地域の大人の支援を受けながら、子ども達が課題を感じていることを追究しています。



【第3分科会】「地域づくりに関わる高校生の取組」

富士見高校園芸科教諭 宮澤 正さん 富士活娘5名

「レムビーカレー」「ゆるキャラ『レムビー』」等、地域を盛り上げる活動をしている富士見高生。保育園児との農業体験から町民への生産物販売と幅広く展開しています。



【第4分科会】「親だからできることとは」

富県地域の昭和生まれの親父(有志)

富県小学校PTA主催の「親子で学ぼう会」では、保護者が建築・医療・美容の3分野について働く姿を見せ、キャリア教育の目指す「大人が子どもの憧れ」になっています。



【第5分科会】「心の温かさが伝わる読み聞かせへ」

読み聞かせボランティア「Senの風」

読み聞かせボランティア「Senの風」による読み聞かせシアター『カモメに飛ぶことを教えた猫』の実演を鑑賞し、読み方や見せ方のコツ、子ども達に伝えたいこと等を教わりました。



【第7分科会】「学校・社協・地域で、みんなのまちづくり」

長谷中学校校長 高木幸伸さん

伊那市社会福祉協議会 石川裕美さん

長谷中学校では、少子高齢等の地域課題を社協と共に考え合い、雑談をする「縁則」から、花の苗の植え付け、合唱部の演奏等へと活動を広げています。



【第6分科会】「子ども、ボランティア、教職員が繋がる学校支援」

駒ヶ根市立赤穂南小学校 Co

みなみっ子村村長 渋谷博光さん

「みなみっ子村」では、マラソン大会での豚汁サービス、駄菓子屋での子どもとの交流等楽しみながら行事を行い、みんなが支え合って活動しています。

